

7月27日高校野球兵庫県大会準決勝が明石トーカロ球場で行われ、関西学院高等部と対戦しました。初回1番深田選手



手の3塁打から2番福谷選手のショートゴロの間に先制点を奪い、2回表の関学の攻撃で1死満塁をダブルプレーで0点に抑えて流れ

に乗り、4回5回に追加点を奪い、3-0で前半を折り返しました。安打数も関学を上回り、社ペースと思われた6回表の関学の攻撃で、2死満塁のピンチでセンターオーバー走者一掃の3塁打を打たれ、同点。後続を断ち同点のまま8回表の関学の攻撃、2死1塁3塁のピンチでタイムリーを打たれ1点リードを許し終盤へ。8回、9回の攻撃で逆転を狙いましたが、凡退が続き、安打数で上回りながら逆転負け……。何とも言いようのない感じに包まれました。私学との対戦では、音響を使用した音楽の使用に差が出て、滝川第二との対戦でも感じましたが、観客席と一体となるためには音楽は必要なのかと感じさせられました。本校は、部員と保護者の方がルールを守り、拍手での応援を続けて選手を激励しましたが、あと一步届かず初の決勝進出を逃しました。保護者の方々も連日暑い中応援に駆け付け、お話をうかがうと「よくぞここまで来てくれた。元気をもらって応援している」と疲れも見せず、拍手を送っておられました。また「守備からベンチに引き上げる時にベンチの選手が出迎えているのがとても良い雰囲気だ」とおっしゃっておられました。最後まで元気よく戦い続けてくれ、楽しませてくれた選手に感謝です。あと少しというところで逃してしまった決勝ですが、この悔しさを胸に1、2年生が秋の大会に向けて奮起し、来年の選抜大会を目指して頑張ってくれることを期待しています。お疲れ様でした。

3年生はここで引退となります。昨年来新型コロナウイルス感染拡大防止から試合も限られ、練習試合にも制限が付き、活動がままならない中での今大会の活躍。本当に真摯に野球に向き合う姿は後輩たちにもとても良い影響を与えてくれたと思います。「考える、工夫する、やれることをやる」山本監督のもとでそれらを実行し、時には話し合い、意見のまとまらない時もあったと思いますが、何度も話し合う中で身に付けた考える力はこれからに必ず生きてくると思います。そして後輩たちもそれを引き継いでくれることでしょう。これからは自分たちの進路実現に向け努力していきましょう。ありがとうございました。



28日の神戸新聞には運動面(上)と北播版(下)の2か所に記事が写真入りで掲載されました。こういった記事を読むと改めて関心の高まりを感じますし、同時に期待感も感じます。その期待に応えていくために、また応援してくださる多くの方々に喜んでいただくために、日々の練習をしっかりとしたものにして行くことはもちろん、日常生活の場面でも周りから応援していただけるような行動をとらなくてはなりません。今回の経験を活かすためにも、今一度そういったところを見直し、持てる力を発揮できるようにしてほしいと思います。そして私たち教員もその時向き合っている生徒の3年間は一度しかないということを忘れず、しっかりと向き合っていかなければならないと改めて感じさせてくれました。



北播版はスタンドの応援風景を掲載

ここで随分と遅くなりましたが報告できていなかった他の部の結果と今後の予定についてお知らせします。柔道部が臨んだ近畿ジュニア大会は大学生との対戦もあり、勝負の厳しさを味わってきたようでした。また男子バレー部の近畿大会は1回戦で花園高校に負け、今の实力を知ることとなり春高バレー予選に向けたチーム作りを見直すことになったようです。生活科学科は7月30日・31日と加古川ヤマトヤシキで販売実習を行います。そちらの方面に行かれる方は是非お立ち寄りください。

全国的に新規感染者数が一気に増えてきました。予断を許さない状況に変わりはありません。暑い時期ですがマスクの着用など感染防止対策並びに体温チェックなど普段の健康管理をよろしく願います。